

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-8512

住 所 川崎市川崎区塩浜1-1-1

氏 名 プレス工業株式会社 川崎工場

代表取締役社長 清水 勇生 印

(代理人) 川崎工場長 小澤 光義

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	プレス工業株式会社 川崎工場		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区塩浜1-1-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	31	輸送用機械器具製造業
主たる事業 の内容	自動車部品製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		2,246 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ~ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	
排出量 (t-CO ₂)	(実) 4,371	(実) 4,668	(実) 4,671	(実) 3,859	(実) 4,240
	(調) 4,338	(調) 4,659	(調) 4,087	(調) 3,859	(調) 4,208
削減率		(実) -6.8 %	(実) -6.9 %	(実) 11.7 %	(実) 3.0 %
		(調) -7.4 %	(調) 5.8 %	(調) 11.0 %	(調) 3.0 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

	付加価値				原単位等の単位	t-CO ₂ /百万円
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度		
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		目標とした値
排出量原単位等の値	1.053	0.9579	0.8716	0.8224		1.02
活動量の値	4,149	4,873	5,359	4,692		-
排出量原単位等の削減率		9.0 %	17.2 %	21.9 %		3.1 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	22年7月よりコロナ影響による海外調達品納入混乱がなくなり生産量が増加したため改善活動は実施したが排出量が基準年度より増加した。 客先生産数増加により全体付加価値金額が上昇したが、設備更新などによる改善活動をしたためエネルギー増加は最小限に抑えることが出来たため基準年度より原単位当たりの排出量は削減することが出来た。	
第2年度	21年、22年度に比べ、生産量増加が増加したため実排出量は増加した。 生産量に直結する数値の付加価値で評価すると原単位あたりの排出量は削減出来ており改善効果は確実にできていると考える。	
第3年度	基準年度より生産量は増加したが、建替えを実施した厚生事務棟屋上に太陽光設置、構内物流改善によるフォークリフト削減等の施策により実排出量を抑制することが出来た。 実排出量が削減できたことから原単位排出量についても目標を達成することが出来た。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		基準年度(2021年度)に比べ、生産量は増加したが改善活動をベースとした削減活動により目標を達成することが出来た。 厚生事務棟への太陽光パネル設置、老朽設備更新が特に効果があった。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		かえる、さげる、ひろう、やめる、なおす、とめるの6つの視点を基に改善活動を推進する。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

全社目標 CO ₂ 排出量 基準年2019年度とし、2025年までに21%削減、 2030年度までに41%削減を目指す。
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 照明設備の運用管理 <ul style="list-style-type: none"> ・照明のLED化推進 ・工場屋根の明りとり推進による照明設備間引き 2. 電動設備の無負荷時消費電力削減 <ul style="list-style-type: none"> ・空転防止・インバータ化の推進 3. 省エネ設備導入推進 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化設備更新に伴い省エネ設備導入 4. 主要設備等の保安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・予防保全による故障率低減伴う設備停止時間低減 ・エア漏れ削減推進 5. 物流改善 <ul style="list-style-type: none"> ・フォークリフト削減 6. 水素エネルギー導入検討
<p>第1年度</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 照明設備の運用管理 <ul style="list-style-type: none"> ・照明のLED化推進 ・工場屋根の明りとり推進による照明設備間引き 3. 省エネ設備導入推進 <ul style="list-style-type: none"> ・溶接ロボット更新実施 ・中央コンプレッサー更新、運用方法見直し。 4. 主要設備等の保安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・予防保全による故障率低減伴う設備停止時間低減 ・エア漏れパトロールによるエア漏れ削減活動 5. 物流改善 <ul style="list-style-type: none"> ・構内物量改善によるフォークリフト削減 ・バッテリーフォークへ更新実施。 7. ムダな電力削減 <ul style="list-style-type: none"> ・非稼働時の機械、設備停止による待機電量削減(追加実施)
<p>第2年度</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 照明設備の運用管理 <ul style="list-style-type: none"> ・照明のLED化推進 2. 電動設備の無負荷時消費電力削減 <ul style="list-style-type: none"> ・プレス機モーターインバータ化 3. 省エネ設備導入推進 <ul style="list-style-type: none"> ・溶接ロボット更新実施 ・コンプレッサー稼働台数見直し 4. 主要設備等の保安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・予防保全による故障率低減伴う設備停止時間低減 ・エア漏れパトロールによるエア漏れ削減活動 5. 物流改善 <ul style="list-style-type: none"> ・構内物量改善によるフォークリフト削減 ・バッテリーフォークへ更新実施 7. ムダな電力削減 <ul style="list-style-type: none"> ・非稼働時の機械、設備停止による待機電量削減(追加実施)
<p>第3年度</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 照明設備の運用管理 <ul style="list-style-type: none"> ・照明のLED化推進 2. 電動設備の無負荷時消費電力削減 <ul style="list-style-type: none"> ・プレス機モーターインバータ化 3. 省エネ設備導入推進 <ul style="list-style-type: none"> ・溶接ロボット更新実施 ・制御盤クーラ更新 4. 主要設備等の保安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・予防保全による故障率低減伴う設備停止時間低減 ・エア漏れパトロールによるエア漏れ削減活動 5. 物流改善 <ul style="list-style-type: none"> ・構内物量改善によるフォークリフト削減 ・バッテリーフォークへ更新実施 7. ムダな電力削減 <ul style="list-style-type: none"> ・非稼働時の機械、設備停止による待機電量削減(追加実施) 8. 太陽光パネル設置 <ul style="list-style-type: none"> ・建替を実施した厚生棟屋上に、太陽光パネル設置。(追加実施)
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>計画で立案した改善活動をすべて実施し、追加アイテムも実施したことにより削減効果</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	○	厚生事務棟屋上に太陽光パネル設置(24年6月より発電開始)
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他(水素エネルギー)	○	川崎市会議に参加するなど導入にむけ工場全体で検討中
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光	24年5月竣工厚生事務棟屋上(パネル枚数:254枚、パネル設置面積:491.4㎡)	2024年

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

4 他 の 者 の 温 室 効 果 ガ ス の 排 出 の 抑 制 等 に 寄 与 す る 措 置 の 実 施 状 況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	無し
第 1 年 度	無し
第 2 年 度	無し
第 3 年 度	無し

5 そ の 他 、 地 球 温 暖 化 対 策 の 推 進 へ の 貢 献 の 実 施 状 況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積載率向上による輸送効率の向上 2. 産業廃棄物の減量化、分別化の推進 3. 従業員への環境啓発 4. 工場全体で省エネ推進
第 1 年 度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 納入便トラック台数の見直し実施。 2. 産業廃棄物資源化に向けた検討実施。 3. 従業員へ向けた環境啓発実施。 4. 各ラインサイドにCO2削減目標を掲げ工場全体で省エネ推進実施。
第 2 年 度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 納入便トラック台数の見直し実施。 2. 産業廃棄物資源化に向けた検討実施。 3. 環境新聞による従業員へ向けた環境啓発実施。 4. 各ラインサイドにCO2削減目標を掲げ工場全体で省エネ推進実施。
第 3 年 度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 納入便トラック台数の見直し実施。 2. 産業廃棄物資源化に向けた検討実施。 3. 環境新聞による従業員へ向けた環境啓発実施。 4. 各ラインサイドにCO2削減目標を掲げ工場全体で省エネ推進実施。

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	4,371 t-CO ₂	4,668 t-CO ₂	4,671 t-CO ₂	3,859 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	2,465 KL	2,586 KL	2,586 KL	2,246 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
プレス工業株式会社川崎工場	川崎市川崎区塩浜1-1-1	4,371	4,668	4,671	3,859

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度